

# 50歳代からNISAや iDeCoで積立を始めても 意味がないのでは？



こんなトークで  
こたえよう



公的年金の支給水準は、今後も引き下がる可能性が高いと言われていきます。そう考えると、公的年金を補完する意味からも、つみたてNISAやiDeCoで資産づくりを行う意味は大きく、今からでも決して遅くありません。

検討されているつみたてNISAは、運用益が非課税になる制度です。一般NISAに比べ商品の選択肢は限られますが、iDeCoのように引出しに制限はないので、気

軽に始められます。

iDeCoは50歳以降に加入の場合、現行ですと、60歳時点では給付を受けることができません、受取りまでに空白期間が生まれてしまうのですが、改正により今年(2022年)5月以降は空白期間がなくなります。加えて支給開始年齢が引き上がるなど、定年前後のお客様にとっても使い勝手がよくなりますので、そちらを選ばれてもよいかと思えます。

加入可能かは「ねんきん定期便」にて確認できます。よ

ければ次回お持ちください。

過度なリスクをとらずに安定して目標の運用益を目指すには、リターンや資産配分・リスク水準をこまめに見直しつつ、できるだけ長く資産運用を行って、保有資産の寿命を延ばしていくことがポイントになります。つみたてNISAやiDeCoはそうした運用に合った制度です。ぜひご検討ください。

## 解説

「人生100年時代」がうたわれ、

超高齢化社会が進んでいる一方、公的年金の財政悪化が懸念されている。公的年金の支給水準の引下げは過去にも行われてきたが、引下げ圧力は今後も高まっていく可能性が高い。一方で公的年金の支給開始年齢については、以前IMF(国際通貨基金)が日本に対して勧告したように、引上げは避けられない状況だと思われる。

こうした点を背景に考えると、50歳代からでも、つみたてNISAやiDeCoを活用して老後資金を増やすことは得策と言える。

改正により定年前後の  
世代にも使い勝手が  
よくなったiDeCo

つみたてNISAは商品の選択肢が限られるものの、運用益が非課税になるメリットが大きい。加えて、いつでも引き出しが可能で、10年間の投資を行わなくてもいいけなわけでもない。

まとまった資金の運用という点では、一般NISAの利用も選択